

「海外協定校との協働による先進的美術・工芸科教員の育成」

—アジアの教員養成4大学間交流による

大学院授業改善とカリキュラム開発にむけて—

- ◎朝野 浩行（東京学芸大学美術・書道講座美術分野）
- 古瀬 政弘（東京学芸大学美術・書道講座美術分野）
- 鉄矢 悦朗（東京学芸大学美術・書道講座美術分野）
- 速水 敬一郎（東京学芸大学美術・書道講座美術分野）
- 清野 泰行（東京学芸大学美術・書道講座美術分野）
- 相田 隆司（東京学芸大学美術・書道講座美術科教育学分野）
- 石井 壽郎（東京学芸大学美術・書道講座美術分野）
- 尾関 幸（東京学芸大学美術・書道講座美術分野）
- 笠原 広一（東京学芸大学美術・書道講座美術科教育学分野）
- 正木 賢一（東京学芸大学美術・書道講座美術分野）
- 花澤 洋太（東京学芸大学教育実践創成講座美術・工芸教育サブプログラム）
- 西村 徳行（東京学芸大学教育実践創成講座美術・工芸教育サブプログラム）
- 岡野 茜（東京学芸大学芸術・スポーツ科学群美術科教室）

代表者連絡先：asa@u-gakugei.ac.jp

【キーワード】大学院教育改善

1 はじめに

各学校・教育機関においてグローバル化する社会の持続的な発展に向けて学び続ける人材育成を目指した教育が展開される中、本学においても教員養成・研修機能の高度化に取り組む、先導的な教員養成プログラム・教職科目の研究・開発が行われている。本研究は、上記の動向を研究背景に、より主体的に社会の形成に参画しうる美術・工芸科教員の養成のため、東アジア教員養成4大学の連携による国・地域の枠を越えた教員養成の高度化の在り方を検討する。本研究と連携する大学は、韓国・国立清州教育大学、タイ・チェンマイラーチャパット大学、台湾・大葉大学とする。同3大学とは2017年より本学美術分野と国際交流展などで交流実績がある。韓国・国立清州教育大学とタイ・チェンマイラーチャパット大学は本学の協定校であり、本プロジェクトを実践するにあたり効果的な共同研究や協議活動が実施できる基盤がある。

2 本プロジェクトの目的

多様な美術や美術文化と深く関わる資質・能力の育成の意義を、実感的に理解した美術・工芸科教員養成のために、東アジア教員養成4大学の連携による国・地域の枠を越えた教員養成の高度化の在り方を検討し、大学院教育におけるグローバルな教育フィールドの提供と教育実践及び国際的美術・工芸教育カリキュラムの開発の推進と大学院教育改善を目的とする。

3 本プロジェクトの内容等

本研究の2年間の内容は、連携を通じた①公開レクチャー（1年目・2年目）、交流展（1年目・2年目）及び研究協議会（1年目・2年目）等の実施、それらを②学部生・教職大学院美術・工芸SP所属学生と一部協働で行い、③教職大学院授業の一部を活用し、現状と将来を見据えた教育と教師のあり方をめぐる課題を設定してより探究的な考察に取り組む。④海外における院生の口頭発表（2年目）を踏まえ、①②③④の成果と課題の省察を通して教員養成の高度化のための大学院授業の改善と、カリキュラム開発への視点提示を行う。

〈手法及び具体的な取組〉

1年目：

東アジアの教員養成4大学による国際美術交流展（circle2023展）の企画・運営・開催。協働校の教授陣による美術教育国際レクチャー。4大学の教員と学生を交えた研究協議会を本学芸術館及び講義棟で次のように実施した。

○東アジア教員養成4大学国際美術交流展（circle2023展）会期：2023年11月10日から11月20日。場所：本学芸術館。図1

○東アジア教員養成4大学の教授陣による公開レクチャーを4回実施。（各国と地域の美術教育について）2023年11月9日・10日。場所：本学講義棟、美術棟。図2,3

○4大学の教員と学生による研究協議会開催。2023年11月10日。場所：本学芸術館、美術棟。「研究協議会テーマ：国・地域の枠を越えた美術教育と教員養成について」図4

○教職大学院授業における交流展・協議会を踏まえた学生による探究的学びの展開。2023年12月～2024年2月。

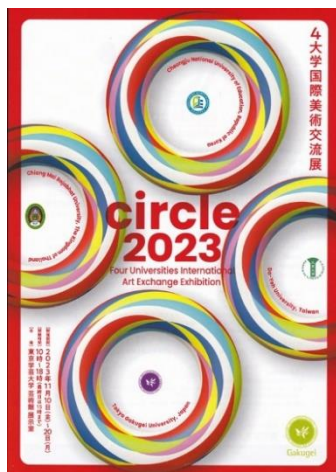


図1、国際美術交流展（circle2023展）成果資料



図2、公開レクチャー案内資料



図 3、本学美術棟でのレクチャー



図 4、本学芸術館での美術交流協議会

2 年目：

- 1 年目に引き続き、東アジアの 4 大学協働による国際美術交流展（circle2024 展）の企画・運営・開催。協働校の教授による美術教育国際レクチャー。4 大学の教員と学生を交えた研究協議会の継続実施。会期：2024 年 7 月 11 日から 7 月 26 日。場所：タイ・チェンマイラーチャバット大学。
- 本学教職大学院生 4 名をタイ・チェンマイラーチャバット大学へ派遣し、それぞれの学生たちが進めてきた研究の口頭発表（英語）図 5,6 と作品発表（展示）図 7,8 を行った。
- 継続的に行ってきた国際美術交流展及び協働大学の美術教育レクチャーを踏まえて、各国の教育内容の探求とグローバルな多様性のある美術教育の学びをもとに具体的な教職大学院教育改善及び先進的なカリキュラム開発の構築を行った。

4 成果

1 年目：

4 大学国際美術交流展は、東アジアにおける教員養成大学の教員と学生がそれぞれの専門性や国際的な美術教育が探求出来るフィールドとなった。多様な教育が求められる現代社会において、東アジア 4 大学から参加する学生たちにとって、将来の美術教育者として仕事の姿勢が構えられる貴重な体験となり、国際的なより広い視野が得られ、技術・感性・教育への情熱など、学生の教職を志す力を伸ばせる場を提供することで交流での学びを深められた。また、国際美術交流展の企画、運営を教員と学生たちが協働することにより、マネジメント能力、協働性、実践的な指導力、展開力の育成を行い、教職大学院の授業を通じた探究的な学習の展開において学生の国際的な視野を実感的に広げられた。

2 年目：

東アジア 4 大学協働による継続した国際美術交流展（circle2024 展）により各国・地域の教員間及び学生間の交流を踏まえ、4 か国の美術分野教員によるレクチャー及び学生を含めた研究協議会から学び得た成果や課題を検証することが出来た。教職大学院の教育改善の実践、教育プログラムの開発の発信により国際的な社会貢献を目指す本学教職大学院の活性化という意味でも、本プロジェクトの研究活動を 2 年目は海外で推進し、東アジア 4 大学の教員と学生が集い、「研究・研修・実践の場」を実践・継続することで、高度専門職業人としての教員の養成、研修機能の強化を図る方法を得られた。

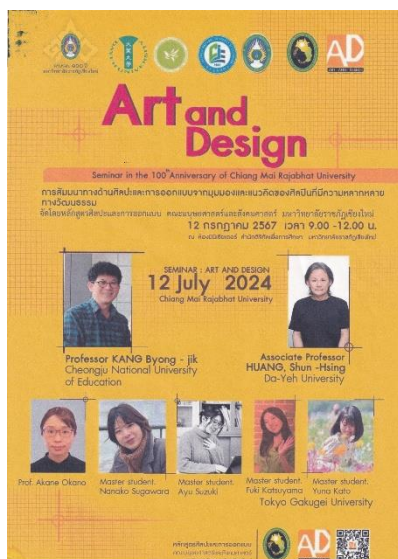


図 5、口頭発表プログラム



図 6、口頭発表実践画像（大学院生）



図 7、作品展示発表資料 1（大学院生）

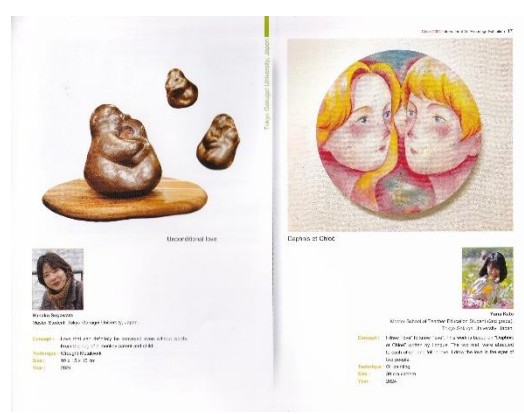


図 8、作品展示発表資料 2（大学院生）

〈第 4 期中期目標・中期計画における関連事項〉

第 4 期中期目標期間の「基本的な目標」と定めている「先進的な取組を支え、新たな先進的な取組の創出を推進する組織マネジメント」により、「個人の幸福と社会の持続的発展に貢献できる教育者を養成」、「日本の学校教育の最先端化を先導する研究及び研修を実施」、「広く国内外において教育に関する研究成果を発信」にあたって、本プロジェクトは本学の目標達成に寄与する。

〈今後の課題〉

- ・東アジア教員養成 4 大学によるグローバルな美術教育の在り方について、2 年間の実践と研究をさらにまとめ、国際的な幅広い指導性を発揮できる教員養成カリキュラムの実践を教職大学院の授業「美術・工芸科の内容構成開発と実践 A・B」「美術・工芸科の実践演習 I・II」において継続的に展開していく。
- ・大学院生への国際的な学びのフィールドを持続的に提供する。
- ・本学の海外提携大学との連携をさらに広げて人的交流の活性化を図り、積極的な共同研究の推進と成果の発信を整備する。
- ・2025 年は韓国・国立清州教育大学をフィールドとして継続的な実践を進める。